令和5年度カリキュラム開発研究

研究主題

「歴史総合における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る学習指導の充実

— 生徒の主体性を引き出す問いの工夫を通して ― 」

活用ガイドブック

令和6年3月

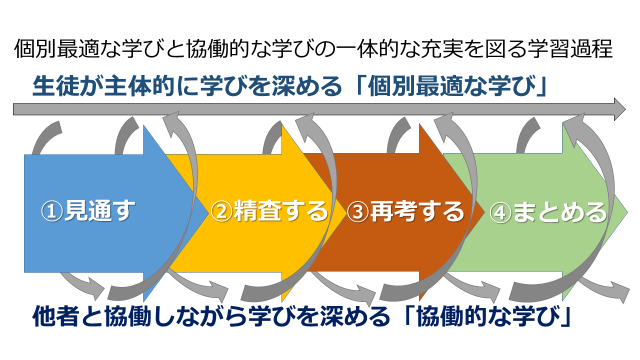
目次

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | タイトル | ページ |
| １ | 単元の学習課題を設定するための教師の支援 － 第１校時「見通す」学習過程 － | １ |
| ２ | 単元の学習課題を精査するための教師の支援 － 「精査する」学習過程 － | ３ |
| ３ | 学びを深めるための教師の支援 － 「再考する」学習過程 － | ３ |
| ４ | 課題を解決するための教師の支援 － 「まとめる」学習過程 － | ４ |
| ５ | 学習指導案 | ５ |

はじめに

高等学校における個別最適な学びと個別最適な学びの一体的な充実について、授業の設計や指導方法の具体的なポイントに関して本ガイドブックに整理しました。

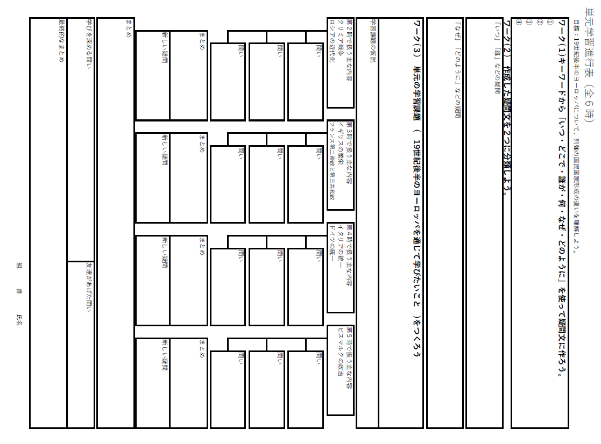
　本授業モデルの特徴は、生徒一人一人が設定した単元の学習課題を追究することで、自ら学びを深めることができる点にあります。生徒が歴史的事象を「自分事」として学びを深めることができるよう教師が支援していくことが重要です。そのため、学習指導要領解説で示されている課題把握、課題追究、課題解決の学習過程について、「①見通す」「②精査する」「③再考する」「④まとめる」に整理しました。本ガイドブックでは、授業改善に生かすことができるよう、必要な指導の手だてや工夫のポイントをまとめました。先生方の授業改善の一助となることを願っております。



(図１)　授業モデルの概念図

１　単元の学習課題を設定するための教師の支援 － 第１校時「見通す」学習過程 －

(1)　「単元学習進行表」を作成する。

　　生徒が、単元の学びに見通しをもつことができるように、教師は

単元の学習の進行について明らかにできるようにします。単元のは

じめに生徒が今後の学習の見通しをもつことが重要です。

　　生徒自身がこれから学ぶ単元についての学習内容や「素朴な疑

問」について、いつ学ぶのかを確認することができるようにします。

(2)　概説を作成する。（教科書の記述を基に作成）

　 生徒にいつ、何を学習することができるかをあきらかにするため

に単元の学習内容について、A３判で１枚程度にまとめて、読む学

習活動を取り入れています。生徒一人一人が自分で学びを選ぶこと

ができるように、学習する内容の概要をつかむことが目的です。

　生徒は読みながら、キーワードにマーカーや下線を付すなどして

これからの学ぶことで重要なことを把握していきます。キーワード　　　(図２)単元学習進行表

については、教科書の太字になっている語句だけではなく、単元の目標や生徒の実態に応じて増したりすると効果的です。

１

概説に記載した文章量については、教科書を参考に約2,800字程度にまとめて作成しました。１校時の授業時間のうち配分できる時間にもよりますが、生徒が単元の概要を掴むことで見通しをもつことができるように文章量やキーワードの工夫などアレンジしてください。また、単元の授業時間ごとの評価規準について、次のように掲載しました。

　例）

□これができたらOK

・クリミア戦争の経過や影響を理解している。

・ロシアの近代化について、農奴解放令の影響や意義を理解している。

　学習内容と評価規準を生徒に事前に示すことで、生徒にとっては「何を、どの程度」学べばいいか、

を把握できるようにします。

(3) 本時の発問を考える。

　 単元の見通しをもつことのできる発問例は次のようなものが考えられます。

|  |  |
| --- | --- |
| 時間軸に着目した発問 | ・「〇〇と□□の間にはどのような変化があったと考えられるだろうか。」 |
| 空間軸に着目した発問 | ・「〇〇と□□ではなぜこのような違いがあったと考えられるだろうか。」 |
| 資料を活用した発問 | ・「資料から分かることと分からないことは何だろうか。」 |

ポイントは、既習の学習内容を土台とした補助発問をした上で、時代の変化などに着目できる主発問を行うことです。加えて、単元の概説を読んで、キーワードを確認して学習内容に関する見通しをもつことで、「分かっていること」や「分からないこと」に着目できるようにして、学びに向かう必然性を高めることです。検証授業では、以下のように発問しています。

例)

補助発問１　19世紀前半のヨーロッパの国際関係には、どのような特色があっただろうか。

補助発問２　20世紀前半のヨーロッパでは、どのような大事件が起こるのでしょうか。

補助発問３　19世紀前半のヨーロッパの地図と20世紀前半のヨーロッパの地図を比較して、違い

は何だろうか。

主発問　 19世紀後半には**どのような変化**があっただろうか。

補助発問１では、前の単元で学習したこと(ウィーン体制下で大国間の戦争が抑えられた。)を想起し、補助発問２では、中学校までの学習で学んでいる２度の世界大戦を想起した。大国間の戦争が抑えられた19世紀前半と、大国間の戦争が起こった20世紀前半を対比し、この間の19世紀後半を扱う本単元での変化について想起できるように主発問を行った。生徒が既習の学習の成果を生かして、これから学ぶことを掴むことができるように補助発問と主発問の工夫することが重要です。

(4) 生徒の学習活動について

単元学習進行表を使って、概説を読んで下線を付したキーワードをきっかけに、疑問をたくさん書き出します。その後、友達と共有して疑問を広げます。広げた疑問を難易度で２つに分類して整理します。こうした疑問を表現する活動を通して単元全体を見通し、その上で単元の学習課題を設定します。単元の学習課題の設定については、学習内容に応じてベン図等の思考ツールを利用して分類する等、生徒の実態に応じて単元の学習課題を設定できるように工夫することが考えられます。

(5) 協働的な学びについて

協働的な学びを通して、他者の考えに触れ、単元の学びについて概観できるように支援します。協働的な学びの場面では、表現した疑問について、３～４人のグループを作って共有します。

２

２　単元の学習課題を精査するための教師の支援 － 「精査する」学習過程 －

(1) 「発問」を考える。

「精査する」学習過程では知識や概念の理解を促し、資料を分析、整理できるように次のような発問例を作りました。特に、授業において主発問となる発問を工夫し、生徒の考えが深まるよう、支援しました。

|  |  |
| --- | --- |
| 資料の精査を促す発問 | ・「資料は根拠としてどの程度活用できるだろうか。」 |
| 資料の有用性について精査を促す発問 | ・「資料は設定した主題に迫るものとして有効だろうか」  ・「この歴史的事象は、どのような資料があると裏づけることができるだろうか。」 |
| 歴史的事象の比較から精査を促す発問 | ・「〇〇と□□を比べると、どのような共通点や相違点があるだろうか。」 |
| 歴史的事象の意味や意義、特色についての精査を促す発問 | ・「〇〇と□□を比べて、どちらを選ぶだろうか。」 |

(2) 「解説動画」を作成する。

　　 生徒が自ら学び方を選びながら「精査する」ためには、歴史的な事象に関する正しい理解が欠かせません。単元の学習課題を設定し、自分の考えを深めるために、教科書や副教材を読んで理解するだけではなく、生徒の実態を把握した教師の支援が不可欠です。生徒が「わかった」「できた」と実感できるよう、解説動画を作成することが効果的です。

(3) 「生徒が表現した疑問」からワークシートを作成する。

第２校時以降は第１校時で生徒が表現した疑問を基にワークシートを作成して、学習課題を提示しました。第２校時から第５校時には、学習内容を調べる際に解説動画を参考にできるよう、ワークシートに解説動画の該当箇所を記載するようにしました。ワークシートについては、授業後に毎時間回収して、評価規準の達成状況を見取るとともに、生徒の記述の状況によって知識及び概念を活用できたところや新たな疑問や問いを表現できたところを肯定的なフィードバックを記述して返却するようにしました。

(4) 協働的な学びについて

生徒の考えをアウトプットすることで理解を深めるため、ワークシートで記述したことを１分もしくは２分程度でまとめて、発表できる時間を設けることが重要であるといえます。自分で調べきれなかった学習内容を訊いて、教え合うこと等を通じて、学びを深めることができます。

３　学びを深めるための教師の支援 － 「再考する」学習過程 －

生徒自身が考えを問い直すことができ、知識や概念の理解をより一層深めることで、単元の学習課題の解決を促すことができると考えました。生徒には、これまでの単元の学習のまとめを表現するよう指示しました。その上で、平成16年度東京都教育研究員や平成29年度東京都教育研究員の研究成果を参考に、以下に示した学習課題の再考を促す問いの例を生徒に提示して、生徒が「学びを深める問い」を表現して、友達と共有することで疑問を深めることができるように促しました。

「学びを深める問い」の例

３

|  |  |
| --- | --- |
| if型 | ・「もし…でないとしたら、○○にどのような経過をたどったでしょうか。」（歴史的事象の必然性について再考を促す） |
| so型 | ・「結局(そもそも)、〇〇は何であったでのしょうか。」（批判的に再考を促す） |
| how far型 | ・「…について、〇〇はどの程度影響したのでしょうか。」（程度や度合いについて再考を促す） |
| despite型 | ・「…であるにもかかわらず、〇〇であったのはなぜだろうか。」（逆説的な思考を促して再考を促す） |

検証授業では、それぞれの型の問いを単元の中に盛り込み、生徒がこのような型の問いを考える経験をしていました。具体的には、if型の問いであれば、「19世紀後半のイギリスやフランスの国民意識はどのように形成されたのだろうか。もし、あなたが民衆であれば、国民意識を高める働きを最も促したと考えられる歴史的な事象を選んで資料を参考にして理由を書いてみよう。」と提示して、第３校時の学習課題としています。despite型の問いは第１校時で「19世紀前半のウィーン体制の頃には大国間の戦争が抑えられていたにもかかわらず、なぜイギリス・フランスとロシアは大規模な戦争をおこなったのだろう。」と問いかけています。単元で学んだことが、再考を促す手だてとなると考えています。

検証授業後のアンケートでは、「再考する」学習過程について、生徒は89.5パーセントの生徒が肯定的に捉えていることがわかります。

（質問）　「学びを深める問い」はあなたの学びに「役立つ」と思いますか。　 ｎ=114

４　課題を解決するための教師の支援 － 「まとめる」学習過程 －

「まとめる」学習過程では、次のような発問例を通じて、歴史を学ぶことへの価値付けを図りました。生徒一人一人が設定した学習課題を解決して、その成果をまとめるだけではなく、価値付けを図ることで、自ら学びに向かう力を育むことができると考えました。

|  |  |
| --- | --- |
| 歴史的事象と生徒自身との関わりについて発問 | ・「主題はあなたにとってどのような価値があるのか。」  ・「この事象を学ぶことは、あなたにとってどのような意味があるだろうか。」 |
| 歴史的事象との現代的な関わりに関する発問 | ・「現代の事象と、どのような点で関連していると考えられるだろうか。」 |

４

地理歴史科（歴史総合）学習指導案

日　時　　令和○年〇月〇日（月）から

　　　　　令和○年〇月〇日（月）まで

学校名　　都内公立学校

対　象　　第１学年〇組〇人

会　場　　〇組普通教室

授業者　　教諭　〇〇　〇〇

１ 単元名 「19世紀後半のヨーロッパ」

２ 単元の目標

　　・　(知識・技能)19世紀後半のヨーロッパにおける国民統合に関わる諸事象について、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、立憲体制と国民国家の形成を理解する。

・　(思考・判断・表現)19世紀後半のヨーロッパにおける国民統合に関わる諸事象について、国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、ヨーロッパ以外の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。

・　(主体的に学習に取り組む態度)19世紀後半のヨーロッパにおける国民統合に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

３ 単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ア 知識・技能 | イ 思考・判断・表現 | ウ 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①　クリミア戦争の経過や影響を理解している。  ②　ロシアの近代化について、農奴解放令の影響や意義を理解している。  ③　19世紀後半のイギリスやフランスに関する諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、両国の国内の動向や対外政策を理解している。  ④　イタリアとドイツにおける統一国家の形成に関する諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、その経緯を理解している。 | ①　イタリアとドイツの統一国家の形成について、共通点や相違点を考察している。  ②　ビスマルク外交について、各国の同盟関係を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 | ①　19世紀後半のヨーロッパにおける国民統合に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。  ②　19世紀後半のヨーロッパにおける国民統合に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら追究しようとしている。  ③　よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。 |

４ 指導観

(1) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領（平成30 年告示）（以下、「高等学校学習指導要領」という。） 地理歴史、歴史総合における「内容Ｂ近代化と私たち」の「（3）国民国家と明治維新」に基づき設定した。歴史総合の目標において、「社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す」ことが示されている。本単元では、19世紀後半のヨーロッパの国民国家の形成について、ヨーロッパ列強の国内状況を捉えた上で、国際情勢の変化を理解することをねらいとしている。19世紀後半には、クリミア戦争を機に列強体制が緩和したため国家統一を目指す戦争や紛争が多発することとなった。特に、ドイツやイタリアの統一国家形成の過程を捉え、その後、ビスマルクによって列強体制の再構築が図られた。このような19世紀後半のヨーロッパの国民国家の形成と国際秩序の展開について、多面的・多角的に考えることは、現代の民主主義の在り方や国際政治を考察する上で重要である。

５

(2) 生徒観

生徒は、歴史の学習に対して基礎・基本的な知識の習得に積極的に取り組むことができる。一方で、自ら学習課題を設定して自主的・自発的に解決を図ろうとする点が課題である。調査研究における所属校の調査結果から「歴史総合の勉強時間について、定期考査に向けた勉強時間を除いて、学校での授業の時間以外に1日の学習時間の中でおおよそどのくらい勉強していますか。」という質問項目に対して、「ほとんどしない」と回答した生徒が49.8パーセントであった（質問１）。定期考査などの学校や教師から設定された課題に向けた学習に積極的に取り組むことはできるが、自主的・自発的な学習に課題があり、授業で学んだことや日常の学習の中から課題を見いだして解決に向けた学習を促す必要があると考えた。調査では、「歴史総合の授業や歴史総合に関する家庭学習をしている中で、疑問に思ったことや興味・関心があった場合には、自分から調べようとしていますか。」という質問項目に肯定的な回答が約85パーセントであった（質問２）。こうしたことから、自ら進んで学習することを促すためには、興味・関心を高め、疑問をもつことができる学習指導が必要であると考えた。そして、生徒が自ら歴史的な事象に対して学習課題を表現する活動を設けることで、主体的に学習を深めることができるであろうと捉えた。さらに、学習課題の解決に向けた学習には、「見方・考え方」を働かせることが重要であり、自分の考えと他者の考えとを比較したり、相互に関連付けて考えたりするなどして多面的・多角的に考察する活動を通して考えを深めることで、考える楽しみを味わい、歴史の学習が「役立つ」と実感できるであろう。こうした学習活動を通して、生徒が自ら学びに向かうことができると考えた。

（質問１）　歴史総合の勉強時間について、定期考査に向けた勉強時間を除いて、学校での授業の時間以外に１日の学習時間の中でおおよそどのくらい勉強していますか。　ｎ=299

　　　（質問２）　歴史総合の授業や歴史総合に関する家庭学習をしている中で、疑問に思ったことや興味・関心があった場合には、自分から調べようとしていますか。　　　　　　　　 ｎ=299

(3) 教材観

19世紀後半のヨーロッパにおける国民国家の形成について、特に西欧諸国では立憲主義が確立し、「国民」として政治に参加して教育を受ける人もいれば、そうではない住民も存在する時代である。国際関係においては、クリミア戦争以降の国際秩序の変化からイギリスとロシアの国際政治への干渉が緩和し、統一国家が形成されていないドイツやイタリアの統一運動が武力によってなされることとなった。ドイツ帝国の成立には、ビスマルクにより新たな列強体制の構築が目指された。こうした国際関係の変化は、のちの２度の世界大戦における基盤となり、現代世界の形成に大きな影響を与えている。19世紀後半におけるヨーロッパの国民統合に関わる諸事象に関する歴史的過程や生活・文化の地域的特色について理解を深めることは、主権者としての自覚を育み、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることにつながると考えた。さらに、時期、年代などの歴史的な諸事象の推移に関わる視点に着目して学習課題を設定することで、社会的事象の歴史的な「見方・考え方」を働かせて、背景や因果関係など、歴史を通じて学び方を習得することが期待できる。

６

５ 調査研究

調査日　令和５年７月13日（木）～20日（木）

調査対象及び調査方法　都内公立学校　第１学年生徒319人　アンケートフォームによる調査

質問項目（１）「あなたは歴史総合の学習が普段の生活や社会生活の中で「役立つ」と思いますか。」と（２）「歴史総合の授業や歴史総合に関する家庭学習をしている中で、疑問に思うことや問いをもつことはありますか。」をクロス集計したものが以下の表である（表１）。質問項目（１）では、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒が79パーセントであった。歴史総合の学習を「役立つ」と捉えることができるためには、疑問に思うことや問いをもつことが重要であると考えたため、質問項目（２）を設定した。「歴史総合の授業や歴史総合に関する家庭学習をしている中で、疑問に思うことや問いをもつことはありますか。」に対して、「ある」、「どちらかといえばある」と回答した生徒は約71％であった。この２つの質問項目をクロス集計したところ、χ²の値は5.99146となり有意水準５パーセントにおいて独立しているという帰無仮説は棄却された。このことから、両質問項目に関連性があるといえるため、生徒自身が疑問に思うことや問いをもつことで歴史の学習を「役立つ」という思うことにできると考えた。

（表１）クロス集計表　 ｎ=299

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | 質問項目（１）あなたは歴史総合の学習が普段の生活や社会生活の中で「役立つ」と思いますか。 | | |  |
|  |  | 「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」 | 「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」 | 分からない | 計 |
| 質問項目（２）歴史総合の授業や歴史総合に関する家庭学習をしている中で、疑問に思うことや問いをもつことはありますか。 | 「ある」、  「どちらかといえばある」 | 180 | 30 | ２ | 212 |
| 「どちらかといえばない」、「ない」 | 57 | 27 | ３ | 87 |
|  | 計 | 237 | 57 | ５ | 299 |

そこで、本検証授業においては、単元の学習を進める中で、生徒自らが関心をもって学習に取り組むことができるようにするとともに、学習を通してさらに関心が喚起されるよう指導を工夫する。生徒自身が単元の学習課題を設定できるよう単元の第１時で発問を工夫する。第１時間目に単元の学習課題と仮説、学習計画を立案することで、課題の追究や解決に主体的に取り組むことができるように支援する。疑問に思うことを表現しながら、調べることを通じて学習方略を身に付けつつ、学びを深めることができるようにする。その際に、「見方・考え方」を働かせるように、歴史上の推移や変化、共通点や相違点、影響や歴史的な意義を考察できるよう発問を工夫し、生徒自身が課題に向き合うことの重要性に気付かせることで主体性を高めることができるよう支援する。

７

６ 研究主題に迫るための手だて

　　ア　単元の学習課題の設定

　　　歴史的な事象を「自分事」として捉えるためには、教師から提示された問いに向き合うのではなく、自分で考えた問いを構想することが効果的であると考えた。そして、生徒自身が単元の学習課題を設定することで、知ること、考えることの楽しさを味わうことが期待できる。そのためには、中学校までに学習してきた既習の学習内容や歴史総合の学習で習得した知識及び概念を活用した発問を通じて支援する必要がある。教師の支援としての単元の見通しをもつことのできる発問例は次のようなものである。

|  |  |
| --- | --- |
| 時間軸に着目した発問 | ・「〇〇と□□の間にはどのような変化があったと考えられるだろうか」 |
| 空間軸に着目した発問 | ・「〇〇と□□ではなぜこのような違いがあったと考えられるだろうか」 |
| 資料を活用した発問 | ・「資料から分かることと分からないことは何だろうか」 |

　　　このように、既習の学習内容を土台とした発問に加えて、単元の概要を学んで学習内容に関する見通しをもつことで、生徒が、「自分事」として捉えることができるようにする。特に、「分からないこと」に着目することで学習に向かう必然性を高めて、協働的な学びを通じて、他者の「分からないこと」にも触れ、単元の学習課題を設定できるように支援する。

イ　個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る学習過程の工夫（図１）

単元を通じて、歴史を自分事として捉えることができ、他者とともに思考を深める楽しさを味わうことができるよう「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る必要があると考えた。このため、本研究では学習指導要領解説地理歴史編に示されている「課題把握、課題追究、課題解決」の三つの学習過程を、木村明憲（『自己調整学習』明治図書出版、2023）の論を参考に「見通す」「精査する」「再考する」「まとめる」と捉えて次のように整理した。

①「見通す」学習過程では、「分からない」ことから単元の学習課題を生徒自身が設定し、単元の各授業の本時の課題として設定する。

②「精査する」学習過程では知識や概念を習得し、資料を分析、整理できるように次のような発問例で支援する。

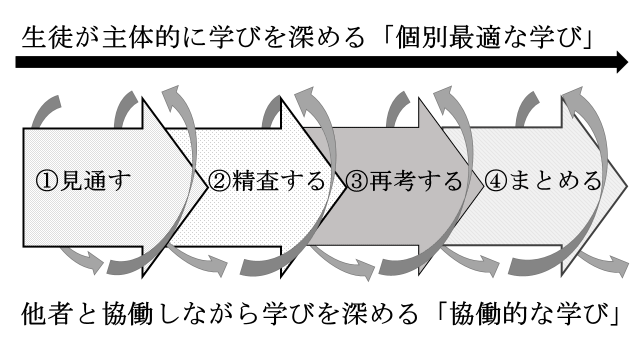
|  |  |
| --- | --- |
| 資料の精査を促す発問 | ・「資料は根拠としてどの程度活用できるだろうか。」 |
| 資料の有用性について精査を促す発問 | ・「資料は設定した主題に迫るものとして有効だろうか。」  ・「この歴史的事象は、どのような資料があると裏づけることができるだろうか。」 |
| 歴史的事象の比較から精査を促す発問 | ・「〇〇と□□を比べると、どのような共通点や相違点があるだろうか。」 |
| 歴史的事象の意味や意義、特色についての精査を促す発問 | ・「〇〇と□□を比べて、どちらを選ぶだろうか。」 |

③「再考する」学習過程において、生徒自身が考えを問い直すことができ、知識や概念の理解をより一層深めることで、単元の学習課題の解決を促すことができると考えた。

④「まとめる」学習過程では、次のような発問例を通じて、歴史を学ぶことへの価値付けを図ることができると考えた。また、新しい疑問が生まれたことを生徒相互で共有し、今後の学習につなげることができると考えた。このような個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る学習過程により、歴史の学習内容に加えて、歴史の学び方を習得することができ、生徒が自ら学習を進め、深めていけるようになると考えた。

|  |  |
| --- | --- |
| 歴史的事象と生徒自身との関わりについて発問 | ・「主題はあなたにとってどのような価値があるのか。」  ・「この事象を学ぶことは、あなたにとってどのような意味があるだろうか。」 |
| 歴史的事象との現代的な関わりに関する発問 | ・「現代の事象と、どのような点で関連していると考えられるだろうか。」 |

８



（図１）個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る学習過程の工夫

　　ウ　学習課題の再考を促す型の習得

　　　単元の学習課題について、「再考する」学習過程において、これまでの学習のまとめを表現し、解決できるよう支援する。さらに、平成16年度東京都教育研究員や平成29年度東京都教育研究員の研究成果を参考に、学習課題の再考を促す問いの例（表２）を生徒自身が活用して、協働的な学びを通じて疑問を深めることができるように促す。

（表２）　学習課題の再考を促す問いの例

|  |  |
| --- | --- |
| if型 | ・「もし…でないとしたら、○○にどのような経過をたどったでしょうか。」（歴史的事象の必然性について再考を促す） |
| so型 | ・「結局(そもそも)、〇〇は何であったでのしょうか。」（批判的に再考を促す） |
| how far型 | ・「…について、〇〇はどの程度影響したのでしょうか。」（程度や度合いについて再考を促す） |
| despite型 | ・「…であるにもかかわらず、〇〇であったのはなぜだろうか。」（逆説的な思考を促して再考を促す） |

７ 単元の指導計画と評価計画(全６時間)

９

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい | 〇主な学習活動　・内容  研究主題に迫るための手だて | 評価方法【評価規準】 |
| １ | 19世紀後半のヨーロッパの国民国家の形成について、概要を理解する。 | 〇　単元の学習内容についての概要を理解し、単元の学習課題を表現する。  　ア　単元の学習課題の設定  ・　クリミア戦争による国際情勢の変化やイギリスやフランスの動向、イタリアとドイツの統一運動の経緯、ビスマルク外交の展開の概要をつかむ。 | 19世紀後半のヨーロッパにおける国民統合に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。【主―①】  ワークシートの記述内容を分析して評価する。 |
| ２ | クリミア戦争とロシアの近代化について理解する。 | 〇　クリミア戦争とロシアの近代化について、因果関係に着目して学習課題を追究する。  ・　クリミア戦争勃発の歴史的な経過について、1848年革命以降の国際情勢の変化を捉え、聖地管理権問題からクリミア戦争が起こる。  ・　クリミア戦争でイギリスやフランスに敗れたロシアでは国内改革に専念し、イギリスが植民地問題への対応に追われた結果、ヨーロッパの列強体制が緩んでイタリアやドイツの統一運動を起こる。  ・　ロシアの近代化について、農奴解放令が発布される。  イ　歴史的事象の意味や意義、特色についての精査を促す発問 | クリミア戦争の経過や影響を理解している。  【知－①】  ワークシートの記述内容から「クリミア戦争に至る経緯やクリミア戦争によって生じた国際情勢の変化について理解しているか」を分析して評価する。  ロシアの近代化について、農奴解放令の影響や意義を理解している。  【知－②】  ワークシートの記述内容から「農奴解放令の影響や意義を理解しているか」を分析して評価する。 |
| ３ | 19世紀後半におけるイギリスとフランスの動向を理解する。 | 〇　19世紀後半におけるイギリスとフランスについて、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめて学習課題を追究する。  ・　イギリスのヴィクトリア期の繁栄について、二大政党制の発展から選挙権が拡大する。  ・　フランスの第二帝政から普仏戦争を機に第三共和政へと移り変わる。  イ　資料の有用性について精査を促す発問 | 19世紀後半のイギリスやフランスに関する諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、両国の国内の動向や対外政策を理解している。【知－③】  ワークシートの記述内容から「19世紀後半のイギリスやフランスに関する諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、両国の動向や対外政策を理解しているか」を分析して評価する。 |
| ４ | イタリアとドイツにおける統一国家の形成に関わる諸事象について、時間軸にそって理解する。 | 〇　イタリアとドイツにおける統一国家の形成に関わる諸事象について、統一運動の共通点や相違点に着目して追究する。  ・　イタリアが自由主義者と協力しながら統一運動を展開する。  ・　ドイツでは対外戦争を通じて統一を実現する。  　イ　歴史的事象の比較から精査を促す発問 | イタリアとドイツにおける統一国家の形成の過程をとらえ、時間軸にそって理解している。【知－④】  ワークシートの記述内容から「イタリアとドイツの統一国家形成の過程をとらえ、時間軸にそって理解しているか」を分析して評価する。  イタリアとドイツにおける統一国家の形成について、共通点や相違点を考察している。【思－①】  ワークシートの記述内容から「イタリアとドイツの統一国家形成について、共通点や相違点を考察しているか」を分析して評価する。 |
| ５ | ドイツ統一後の国内外の政治状況について、その特質を理解する。 | 〇　ドイツ統一後の国内外の政治状況について、外交関係を多面的・多角的に考察して表現する。  ・　ビスマルク外交の特質やフランスを孤立させる同盟網を形成する。  10 | ビスマルク外交について、各国の同盟国を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。  ワークシートの記述内容から、「ビスマルク外交について同盟関係を表現できているか」を評価する。【思―②】 |
| ６ | 19世紀後半のヨーロッパの国民統合に関わる諸事象について、学習を振り返りながら追究する。 | 〇　単元の学習課題について、学習の成果をまとめるとともに再考して、協働的な学びを通じて課題を解決して表現する。  イ　歴史的事象と生徒自身との関わりについて発問  ウ　学習課題の再考を促す型の習得 | 19世紀後半のヨーロッパにおける国民統合に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら追究しようとしている。  【主―②】  ワークシートの記述内容から、「見通しをもって学習に取り組み、学習を振り返りながら追究することができたか」を評価する。  よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へつながりを見いだそうとしている。19世紀後半のヨーロッパにおける国民国家の発展について、学習課題を解決しようとしている。  【主―③】  ワークシートの記述内容から、「自身との関わりを踏まえて学習を振り返り、次の学習へつなげることができたか」を評価する。 |

８ 各時間の指導案

(1) 第１時の目標

19世紀後半のヨーロッパの国民国家の形成について、概要を理解する。

(2) 第１時の展開

11

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容 Ｔ教師の発問 Ｓ生徒の反応 | ・指導上の留意点 | 評価規準(評価方法) |
| 導入  ５分 | 〇既習事項について、資料を読み解きながら、疑問を見いだす。  Ｔ19世紀前半のヨーロッパの国際関係には、どんな特徴であっただろうか。  Ｓ勢力均衡だった。  Ｓナショナリズムの高揚を抑えた。  Ｓイギリスやフランスなどの戦争が抑えられた。  Ｔこれから19世紀後半のヨーロッパを学びますが、その後、20世紀前半のヨーロッパでは、どんな大事件が起こるでしょうか。  Ｓ世界大戦が起こります。  Ｓ第一次世界大戦が起こります。  Ｔ19世紀前半のヨーロッパの地図と20世紀前半のヨーロッパの地図を比較して違いは何だろうか。（手だてア時間軸・空間軸に着目した発問）  Ｓフランスが王国から共和国になっている。  Ｓ20世紀前半にはドイツという国家がある。  Ｔ19世紀前半には大国間の戦争が抑えられたにもかかわらず、20世紀前半のヨーロッパでは、２度も大国間の戦争が起こったのはなぜだろう。この間の19世紀後半には、どのような変化があったと考えられるだろうか。  【本時の学習課題】19世紀後半のヨーロッパについて、概要をつかみ、単元の学習課題を設定する。 | ・既習の学習内容について、質問を通じて確認する。 |  |
| 展開  40分 | 〇単元の概説を読んで、学習内容をつかむ。  Ｔ概説を読んで、これからどんなことを学ぶのでしょうか。キーワードを探して疑問文をたくさん書き出してみましょう。(個人探究)  Ｔグループで共有し、発表しましょう。  Ｓイギリスは二大政党制が発展するのはなぜか。  Ｓウィーン体制が崩壊して以来、最初の列強間の大戦争がクリミア戦争はなぜ起こったのだろう。  Ｓフランスではナポレオン３世がドイツに敗れたのはなぜか。  Ｓどのようにしてイタリアとドイツがそれぞれ統一されたか。  〇生徒が作成した疑問を分類する。  Ｔ作成した疑問を難易度で２つに分類してみましょう。  Ｓイギリスは二大政党制に関する問いは難しいと思います。  Ｓイタリアの統一の経緯を調べることで、どのように統一されたか知ることができそうです。  〇単元の目標と評価規準を提示して、単元を見通す問いを作成する。(個人探究)  Ｔグループで出た問いをヒントに、単元を見通す問いを作成しましょう。  Ｓ19世紀後半のヨーロッパ各国の政治はどのようなものか。  Ｓイギリスなどの列強諸国はどんな政治をおこなっていたか。  Ｓウィーン体制後のヨーロッパのようすはどのようなものか。  ◯単元を見通す問いをグループで共有し、再考を促す。(グループワーク)  Ｔどのような問いだと単元の目標を達成できそうでしょうか。  Ｓ19世紀後半のヨーロッパ列強はどのような国家を形成したか。  Ｓ19世紀後半のヨーロッパ各国の関係はいかなるものであったか。  Ｔ自分自身でたてた問いに対して、仮説をたてて何が分かれば明確になりそうか、共有した疑問を振り返って計画してみましょう。 | ・生徒が書き出した疑問について、アンケートフォームを活用して共有できるよう支援する。  ・グループ内で共有する。  ・学習計画の見通しをもたせるために振り返りを促す。 |  |
| まとめ  ５分 | 〇単元の構想について整理する。 | ・統合型学習支援サービスなどのチャット機能を使ってワークシートを共有させて、生徒相互で確認できるようにする。 | ・19世紀後半のヨーロッパにおける国民統合に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。【主―①】  ワークシートの記述内容を分析して評価する。 |

(1) 第２時の目標

クリミア戦争とロシアの近代化について理解する。

(2) 第２時の展開

12

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容 Ｔ教師の発問 Ｓ生徒の反応 | ・指導上の留意点 | 評価規準(評価方法) |
| 導入  ５分 | 〇「ナイティンゲールのエピソード」から、本時の学習課題を捉える。  Ｔナイティンゲールのことで知っていることはありますか。  Ｓクリミアの天使と呼ばれていました。  Ｓイギリスの貴族出身の看護師です。  Ｔナイティンゲールは「クリミアの天使」と呼ばれることをあまり喜んでいませんでした。そもそも、クリミア戦争でのイギリスの損害が大きかったのです。  Ｓ大きな犠牲を出してまでなぜイギリスはロシアと戦ったのだろう。  Ｔ19世紀前半のウィーン体制の頃には大国間の戦争が抑えられていたにもかかわらず、なぜイギリス・フランスとロシアは大規模な戦争をおこなったのだろう。また、このことは国際秩序にどのような影響をもたらしたといえるだろうか。  【本時の学習課題】クリミア戦争はどのような点で重要とみなすことができるだろうか。 | ・既習の学習内容について、質問を通じて確認する。 |  |
| 展開  40分 | 〇（ア）クリミア戦争の背景や経過について、調べる  〇（イ）クリミア戦争の結果や意義について、調べる。  〇（ウ）ロシアの近代化のうち、特に農奴解放令の内容と影響について、調べる。  Ｔそれぞれのテーマについて、背景、経過、結果などに着目して調べてみましょう。  Ｓ（個人探究）  〇調べたことについて、分かったことを共有する。  Ｔそれぞれのテーマについて、テーマごとのグループで共有しながら説明できるよう整理しましょう。(グループワーク)  Ｓ背景について、1948年革命以降の国際情勢の変化がわかった。  Ｓ聖地管理権問題ということがきっかけとなっていることがわかった。  Ｓロシアがオスマン帝国と戦って、イギリスやフランスがオスマン帝国を支援したことがわかった。  Ｓ結局、パリ条約を結んでこの戦争は終結したことがわかった。  Ｓロシアの近代化のなかでも、特に農奴解放令は農奴に人格的自由を認めて工場労働者になる者もいた。  Ｔ（ア）（イ）（ウ）の順で説明できるようにグループを入れ替えて、共有して整理しましょう。(グループワーク)  Ｓ聖地管理権問題からギリシア正教徒の保護を口実にオスマン帝国と戦ったが、イギリスやフランスがオスマン帝国を支援してパリ条約によって講話し、ロシアの南下政策は失敗に終わった。  Ｓ聖地管理権問題からクリミア戦争を戦ったロシアはイギリス・フランスに敗れて、国内改革に専念した。特に、農奴解放令に関しては、ロシアの工業化を促すきっかけとなった。  Ｔクリミア戦争はどのような点で重要といえるのか、意味や意義について考えてみましょう。(グループワーク)  Ｓクリミア戦争によってロシアの近代化を促したということから、国家には工業力が重視されるなった点で重要であった。  13  Ｓクリミア戦争後に武力による統一運動が起こったことから国際関係に大きな影響を与えている点で重要であった。  Ｔクリミア戦争はどのような点で重要といえるのか、意味や意義について考えてみましょう。(個人探究) （手だてイ歴史的事象の意味や意義、特色についての精査を促す発問）  Ｓクリミア戦争で大国間の戦争が起こったという点でヨーロッパの国際秩序は変化した。また、戦争の勝敗には工業力が重要であり、個人が経済力を有することで教育を受けて国民となっていく必要性を促したといえる。  Ｓ国際関係が大きく転換したという点でクリミア戦争は転機となった。ロシアの南下政策とそれに反対するイギリスの対立がヨーロッパの国際関係の基軸となった。そのため、ロシアでは国力を高めるために農奴解放令を発布して、国内改革に専念した。 | ・調べる視点を確認する。（背景、原因、経過、結果）  ・調べたことで生まれた新たな疑問についてメモを取っておくように指示する。  ・生徒毎に役割を設定して、グループで共有し、発表できるように支援する。  ・全体で共有し、発表を聞く際に疑問に感じたことをメモしておくよう指示する。 | ・クリミア戦争の経過や影響を理解している。  【知－①】  ワークシートの記述内容から「クリミア戦争に至る経緯やクリミア戦争によって生じた国際情勢の変化について理解しているか」を分析して評価する。  ・ロシアの近代化について、農奴解放令の影響や意義を理解している。  【知－②】  　ワークシートの記述内容から「農奴解放令の影響や意義を理解しているか」を分析して評価する。 |
| まとめ  ５分 | 〇学習の振り返りをする。  Ｔ今日の学習で、学んだことは何でしたか、新たに疑問があれば記入しましょう。 | ・統合型学習支援サービスなどのチャット機能を使ってワークシートを共有させて、生徒相互で確認できるようにする。 |  |

(1) 第３時の目標

19世紀後半におけるイギリスとフランスの動向を理解する。

(2) 第３時の展開

14

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容 Ｔ教師の発問 Ｓ生徒の反応 | ・指導上の留意点 | 評価規準(評価方法) |
| 導入  ５分 | 〇資料１「20世紀初頭のアフリカの植民地」、資料２「20世紀前半の列強の植民地領有面積の割合」を比較して本時の学習課題を捉える。  Ｔ資料１と資料２からどんなことがいえますか。  Ｓ資料１ではイギリスもフランスもアフリカに広大な植民地をもっています。資料２を見ると、イギリスもフランスも本国の広さよりはるかに広い植民地の面積をもっていることが分かります。  Ｔ19世紀後半を通じてイギリスやフランスはなぜ広大な植民地を領有するようになっていったか。  Ｓ産業革命の結果、工業力が増大したから。  Ｓ強力な軍事力があったから。  Ｓもともと植民地をもっていたから。  Ｔイギリスやフランスの国民は海外領土の獲得をどのように思っていたのだろうか。また、それを支えた国民意識はどのように形成されたのだろう。 | ・資料１アフリカの植民地の獲得状況から英仏間の対立を想起させ、資料２1880年代以降の植民地獲得競争の結果、イギリスもフランスも広大な植民地を有する帝国主義国家へとつなげっていくことを指摘する。  【本時の学習課題】19世紀後半のイギリスやフランスの国民意識はどのように形成されたのだろう。また、共通点や相違点はあるのだろうか。 |  |
| 展開  40分 | 〇反転授業の動画を視聴して予習した内容も含めて時間軸にそってイギリスとフランスの国内状況や外交政策について整理する。  Ｔ19世紀後半のイギリスとフランスの国内状況や外交について、調べてまとめてみましょう。  Ｓ（個人探究）  〇イギリスとフランスの動向について、調べてわかったこと共有する。(グループワーク)  Ｔイギリスとフランスの動向について、わかったことを共有しましょう。  Ｓイギリスはヴィクトリア女王のもとで世界の工場として経済的に発展した。  Ｓイギリスでは労働者にも選挙権の拡大がみられた。  Ｓフランスはナポレオン３世の時代に工業化が一層促された。  Ｓナポレオン３世はさかんに対外戦争を行って、普仏戦争で敗北し、失脚した。  Ｓ第三共和政が成立し、フランス革命を旗印に国民統合がなされた。  〇国民意識の形成について、諸資料を活用して最も影響のあったことを考察する。（グループワーク）（手だてイ資料の有用性について精査を促す発問）  Ｔ19世紀後半のイギリスやフランスの国民意識はどのように形成されたのだろう。国民意識を高める働きを最も促したと考えられる歴史的な事象を選んでみよう。  Ｓイギリスは、万国博覧会の開催によって国民意識が高まった。  Ｓイギリスでは選挙法改正によって、国民としての意識を高めた。  Ｓフランスでは普仏戦争で敗れて、国民感情が高まった。  〇イギリスとフランスの共通点や相違点を見いだす。  Ｔイギリスとフランスの国内政治や外交政策にはどのような共通点や相違点があるでしょうか。  Ｓ労働者もおおむね選挙権を獲得していたことが共通している。  Ｓ産業革命が進展していたこと。  Ｓ対外政策では、イギリスが海外市場を求めて植民地を拡大させたことに対して、フランスは皇帝の意向によって植民地が拡大していっている。  Ｓイギリスと異なりフランスは対外戦争で屈辱的な敗北をしていてドイツに敵愾心を持っていること。 | ・イギリスの国内状況、外交政策、フランスの政治の動向、外交政策の観点から整理する。  ・調べたことで生まれた新たな疑問についてメモを取っておくように指示する。  ・グループ内の意見を全体で共有する。  ・グループ内の意見を全体で共有する。 | ・19世紀後半のイギリスやフランスに関する諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、両国の国内の動向や対外政策を理解している。【知－③】  ワークシートの記述内容から「19世紀後半のイギリスやフランスに関する諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、両国の国内の動向や対外政策を理解しているか」を分析して評価する。 |
| まとめ  ５分 | 〇学習の振り返りをする。  Ｔ今日の学習で、学んだことは何でしたか、新たに疑問があれば記入しましょう。 | ・統合型学習支援サービスなどのチャット機能を使ってワークシートを共有させて、生徒相互で確認できるようにする。 |  |

(1) 第４時の目標

イタリアとドイツにおける統一国家の形成に関わる諸事象について、時間軸にそって理解する。

(2) 第４時の展開

15

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容 Ｔ教師の発問 Ｓ生徒の反応 | ・指導上の留意点 | 評価規準(評価方法) |
| 導入  ５分 | 〇プロイセン首相のビスマルクのエピソードを紹介し、イタリアとドイツの国家統一がほぼ同時期であったことを指摘する。  Ｔ19世紀前半のイタリアとドイツの統一運動にはどのような課題がありましたか。  Ｓイタリアは民衆による革命運動が鎮圧され、ドイツでも自由主義者が起こした革命は失敗に終わった。  Ｓフランクフルト国民議会で話し合いによる憲法制定が目指されたが、結局失敗に終わった。  Ｓ1848年の三月革命では、民衆が蜂起したが失敗に終わった。  Ｔ19世紀後半にイタリアとドイツはどのようにして、統一を達成したのでしょうか。  【本時の学習課題】イタリアとドイツの統一は、いかなる共通点や相違点があるのだろう  か。 | ・既習の学習内容について、質問を通じて確認する。 |  |
| 展開①  40分 | 〇反転授業の動画を視聴して予習した内容も含めて時間軸にそってイタリアとドイツの統一運動について整理する。  Ｔイタリアとドイツの統一運動について、時間軸にそって整理してまとめましょう。  Ｓ(個人探究)  Ｔイタリアとドイツの統一運動について、整理したことを時間軸に着目して、学習を整理しましょう。(グループワーク)  Ｓサルデーニャ王国がクリミア戦争に参戦以降、イタリア統一運動の中心となった。  Ｓなぜサルデーニャ王国がフランスの協力を得ることができたのだろう。  Ｓなぜイタリアは、ドイツがオーストリアやフランスと戦っているときにヴェネツィアやローマ教皇領を獲得できたのだろう。  Ｓプロイセンの首相にビスマルクが登用されて鉄血政策を開始した。  Ｓデンマーク戦争、普墺戦争、普仏戦争でドイツの統一が達成された。  Ｓオーストリアは領土を失い、どのように国家の再建が行われたのだろう。  〇イタリアとドイツの統一運動について学んだことを共有する。  Ｔイタリアの統一運動について、整理したことを発表しましょう。  Ｓサルデーニャ王国がクリミア戦争に参戦して国際的な地位を高めてフランスの協力を得て、オーストリアと戦った。ガリバルディの活躍もあってイタリア王国が成立した。  Ｔドイツの統一運動について、整理したことを発表しましょう。  Ｓプロイセンの首相にビスマルクが登用されて鉄血政策を開始し、デンマーク戦争、普墺戦争、普仏戦争でドイツの統一が達成された。  〇イタリアとドイツの統一運動の共通点や相違点を見いだす。〈個人探究) （手だてイ歴史的事象の比較から精査を促す発問）  Ｔイタリアとドイツの統一運動について、イタリアとドイツの統一運動にどの程度共通点や相違点を見いだすことができると考えますか。  Ｓ統一運動の中心勢力は、19世紀前半は民衆が中心であったが、ドイツではビスマルクがユンカー出身であったように支配者層が中心であったことが共通している。  16  Ｓイタリアの統一運動の場合は、ドイツが支配層からの統一運動であったのに対して、ガリバルディなどの自由主義者も統一運動に協力している点がドイツとは異なっている。  Ｓ自由主義者の統一運動が失敗に終わったという共通点に着目することができます。  Ｓ国力の違いからプロイセンが中心となりえたドイツの統一運動に対し、サルデーニャは小国であったので自由主義者や他国の協力なくしては統一を進めることができなかったという相違点があります。 | ・イタリアの自由主義者の動向、サルデーニャ王国の動向、プロイセンの動向の観点から整理する。  ・調べたことで生まれた新たな疑問についてメモを取っておくように指示する。 | イタリアとドイツにおける統一国家の形成の過程をとらえ、時間軸にそって理解している。【知－④】  ワークシートの記述内容から「イタリアとドイツの統一国家形成の過程をとらえ、時間軸にそって理解しているか」を分析して評価する。  イタリアとドイツにおける統一国家の形成について、共通点や相違点を考察している。【思－①】  ワークシートの記述内容から「イタリアとドイツの統一国家形成について、共通点や相違点を考察しているか」を分析して評価する。 |
| まとめ５分 | 〇学習の振り返りをする。  Ｔ今日の学習で、学んだことは何でしたか、新たに疑問があれば記入しましょう。 | ・統合型学習支援サービスなどのチャット機能を使ってワークシートを共有させて、生徒相互で確認できるようにする。 |  |

(1) 第５時の目標

ドイツ統一後の国内外の政治状況について、その特質を理解する。

(2) 第５時の展開

17

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容 Ｔ教師の発問 Ｓ生徒の反応 | ・指導上の留意点 | 評価規準(評価方法) |
| 導入  ５分 | 〇ドイツの統一の経過について生徒相互で確認する。  Ｔドイツの統一運動はどのような経過をたどりましたか。  Ｓビスマルクが鉄血政策を進め、デンマーク、オーストリア、フランスを破ってドイツを統一した。  Ｔドイツの統一戦争で敗北したフランスの国民の多くはドイツに対してどのような国民感情をもったでしょうか。  Ｓビスマルクを恨んだり、ドイツに復讐しようとしたり考えた。  Ｔ対独復讐感情の強いフランスをどのように封じ込めを図ったのだろうか。  【本時の学習課題】ドイツ統一後、どのようにして国際秩序を再構築したのだろうか。 | ・既習の学習内容について、ペアワークを通じて確認する。 |  |
| 展開  40分 | 〇反転授業の動画を視聴して予習した内容も含めて時間軸にそって統一後のドイツの国内政治や外交政策について整理する。  Ｔ統一後のドイツの国内政治や外交政策について、調べてまとめてみましょう。  Ｓ（個人探究）  〇統一後のドイツの国内政治について、調べたことを共有する。(グループワーク)  Ｔ統一後のドイツの国内政治について、わかったことを共有しましょう。  Ｓ文化闘争では南ドイツのカトリック教徒を弾圧して、国家の統一を図った。  Ｓ社会主義者鎮圧法を作り、労働運動を抑える一方で、社会保険制度を整備して労働者の支持を得ようとした。  〇ビスマルク外交について時間軸にそって具体的に説明する。 (グループワーク)  Ｔビスマルク外交について、どのように推移したか、説明しましょう。  Ｓドイツは、ロシア・オーストリアと三帝同盟を結んだが、ロシア=トルコ戦争で破綻し、ロシアとは再保障条約を結んだ。さらにフランスと対立したイタリアを加えてオーストリアと三国同盟を結び、フランスの孤立に努めた。  Ｓドイツは、フランスを孤立させるために三帝同盟や三国同盟を締結して、ロシアとの同盟関係を重視した。  Ｓイギリスとは婚姻関係を結んで良好な関係を維持し続けた。ドイツは、イギリスとの良好な関係を維持するために海外進出を控えた。 | ・ドイツの国内政治、ビスマルク外交の推移の観点から整理する。  ・調べたことで生まれた新たな疑問についてメモを取っておくように指示する。 | ビスマルク外交について、各国の同盟国を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。  ワークシートの記述内容から、「ビスマルク外交について同盟関係を表現できているか」を評価する。【思―②】 |
| まとめ５分 | 〇学習の振り返りをする。  Ｔ今日の学習で、学んだことは何でしたか、新たに疑問があれば記入しましょう。 | ・統合型学習支援サービスなどのチャット機能を使ってワークシートを共有させて、生徒相互で確認できるようにする。 |  |

(1) 第６時の目標

19世紀後半のヨーロッパの国民統合に関わる諸事象について、学習を振り返りながら追究する。

(2) 第６時の展開

18

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容 Ｔ教師の発問 Ｓ生徒の反応 | ・指導上の留意点 | 評価規準(評価方法) |
| 導入  ５分 | 〇これまでの学習内容を生徒相互で意見交換しながら振り返る。  Ｔこれまでの学習の中で、19世紀後半の国民国家の形成に大きな影響を与えた出来事は何でしょうか。(ペアワーク)  Ｓドイツの統一によって、大国ができてヨーロッパの国際関係に影響したこと。  Ｓクリミア戦争で戦争を勝つためには工業力が必要と示したことが大きいと思う。  Ｓヨーロッパの各国では選挙権の拡大が見られて、産業革命の進展も多いに見られたことだと考えています。  Ｓ国民の政治参加が見られて、教育の重要性も認識されたことだと思います。  【本時の学習課題】単元の学習課題について、19世紀後半のヨーロッパの特質を表現し  よう。 | ・既習の学習内容について、ペアワークを通じて確認する。 |  |
| 展開  40分 | 〇単元の学習課題に関して、自分の考えをまとめる。  Ｓ（個人探究）  〇単元の学習課題をまとめたものを振り返り、省察を促す。  Ｔまとめを記述したものを自分自身で振り返り、間違えたものや理解不足なところに印をつけてみよう。  Ｓイギリスの外交政策がまだ不明瞭だと考えています。  Ｓイタリアの統一がまだ理解できていないです。  Ｓドイツの国内情勢について勉強する必要があると思います。  Ｔ単元の学習課題をより深めるために間違えたところを共有しましょう。（グループワーク）  Ｓイギリスの外交政策で、植民地を増やしているだけではなく、自治を認めている地域もあるのがよく分からない。  Ｓイタリアは統一されたけど、議会などはどのように機能していたのかな。  〇学習を深めるために、再考を促す問いの型を例示して、生徒自身が選択して問いを表現する。  （手だてウ　学習課題の再考を促す型の習得）  Ｔ例示した問いの型をまねて学習を深める問いを表現してみよう。  Ｓ19世紀後半のイギリスは、植民地を拡大しているにもかかわらず、自治を認めているのはなぜだろう。  Ｓイタリアでは、議会がどの程度機能していたといえるのだろう。  〇表現した問いについて考察する。  Ｔ表現した問いを共有して、２分で発表できるように整理しましょう。（グループワーク）  〇３人１グループになり、各２分で相互に発表して共有する。(グループワーク)  Ｔグループの中で代表者を決めて発表しましょう。  Ｓ学習課題は「19世紀後半のヨーロッパ各国の政治はどのようなものか」というもので、イギリス、フランス、ドイツでは立憲主義にたって政治が行われました。一方で、ロシアは議会や憲法がなく、君主権の強いドイツ、オーストリア、ロシアは三帝同盟を結びました。フランスは共和政になり、イギリスには君主がいても「君臨すれども統治せず」といわれて議会の力が強かったです。このように君主の権限が憲法によって強く制約される国もあればそうでない国もありました。  Ｓ学習課題は「19世紀後半のヨーロッパでは大国間の戦争が多数起こったのはなぜか」というもので、クリミア戦争以降、国民意識の高まりから統一を求めるドイツやイタリアがオーストリアやフランスに対し、武力によって解決を図ったからだった。もし、外交的な努力を図るのであればウィーン会議のような大きな国際会議が開かれたのだろうと考えた。  Ｓ学習課題は「19世紀後半のヨーロッパでは、選挙権が拡大して民主化が進んだ」です。イギリスではほとんど男性普通選挙が実現し、フランスやドイツでも同様でした。しかし、ロシアには議会がなく、オーストリアも選挙権もなく支配されている民衆が多数いることで皇帝の権限が強い専制国家もありました。このような民主的な国と王の力が強い国との民主化の違いが出てきたのが19世紀後半でした。  〇現代的な意義を考察して、振り返る。  Ｔ今回の単元で学んだことは、現代にどのように関連していると考えることができますか。  Ｓ(個人探究) | ・新たな疑問や分からないことについて、メモを取ってフィードバックできるように指示する。 | 19世紀後半のヨーロッパにおける国民統合に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら追究しようとしている。  【主―②】  ワークシートの記述内容から、「見通しをもって学習に取り組み、学習を振り返りながら追究することができたか」を評価する。 |
| まとめ５分 | 〇学習の振り返りをする。  Ｔ今回の単元を通じて、あなたにとってどのような価値があるのか記入しましょう。  　（手だてイ歴史的事象と生徒自身との関わりについて発問）  19 | ・統合型学習支援サービスなどのチャット機能を使ってワークシートを共有させて、生徒相互で確認できるようにする。 | よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へつながりを見いだそうとしている。19世紀後半のヨーロッパにおける国民国家の発展について、学習課題を解決しようとしている。  【主―③】  ワークシートの記述内容から、「自身との関わりを踏まえて学習を振り返り、次の学習へつなげることができたか」を評価する。 |

９　指導上の留意点

ア　知識の理解を促す解説動画の作成

歴史的な事象を捉えるためには、視覚情報や聴覚情報によって生徒が学び方を選べるような支援が必要である。そこで、本単元では第２校時から第５校時までで扱う学習内容に関して、解説動画を作成した。解説動画のチャプター設定し、学習内容をすぐに探すことができるようにした。生徒の実態に応じて、講義形式の授業が効果的であることも考えられる。

　　　第２校時　クリミア戦争(25分22秒)、ロシアの近代化(15分17秒)

　　　第３校時　19世紀後半のイギリス(12分16秒)、19世紀後半のフランス(12分30秒)

第４校時　イタリアの統一(23分05秒)、ドイツの統一(24分25秒)

第５校時　ビスマルクの政治(27分53秒)

イ　見通しをもつことができる概説の作成

　　　第１校時で使用した概説に関しては、教科書の記述を基に、各校時の目標や評価規準を明記して、生徒が見通しをもつことができるように作成した。19世紀後半のヨーロッパを理解する上で重要なキーワードに関しては、あらかじめゴシック体にして知識及び概念に着目できるよう工夫した。

　　ウ　各校時で使用するワークシートの作成

　　　第１校時では「単元学習進行表」を活用し、第２校時以降は第１校時で生徒が表現した疑問を基にワークシートを作成して、学習課題を提示した。第２校時から第５校時には、学習内容を調べる際に解説動画を参考にできるよう、ワークシートに解説動画の該当箇所を記載するようにした。また、授業後の調査から自分の考えをアウトプットすることで理解が促されたという生徒が多く、ワークシートで記述したことを１分もしくは２分程度でまとめて、発表できる時間を設けることが重要である。

授業後にはワークシートを毎時間回収して、評価規準の達成状況を見取るとともに、生徒の記述の状況によって知識及び概念を活用できたところや新たな疑問や問いを表現できたところを肯定的なフィードバックを記述して返却するようにした。

エ　統合型学習支援サービスなどのチャット機能の活用

　　　各校時の１週間前を目途に解説動画のリンクをチャットに投稿して、生徒が時間的な余裕をもって予習することができるように配慮した。授業後には、生徒の記述内容を教師が整理してチャットに投稿して、模範的な表現について学ぶことができるようにした。

20